

序 文

名古屋大学工学研究科・工学部では、調和が取れた発展の礎となる科学と技術の進展を目指した教育と研究に努めています。ご存じのとおり 20 世紀後半からの目覚ましい科学技術の発達に伴い、学問領域は大きな広がりを持ち高度に深化してきています。またその一方で、この革新的な技術を伴った人間活動は、地球規模の汚染問題や人口爆発、資源の枯渇問題、食料・水不足などの深刻な問題も生み出しています。その中で、広く工学の対象範囲も広がり、さらに拡大を続けていることから、工学分野の教育・研究にもその質と量の両面で変革が求められています。この状況下で最先端の学術研究を推進し、同時に質の高い工学教育を実践するためには、高度な技術支援が不可欠であることは言うまでもありません。その意味で大学における技術支援の果たす役割は非常に大きいものです。

しかるに、本学における技術支援組織の現状を見ると、十分な規模を持っているとはいえない状況にあります。加えて、技術支援組織が担当すべき専門領域も、科学技術領域の拡大に伴うものだけでなく、教育研究の基礎インフラとしての安全・衛生管理、環境保全、情報セキュリティなどの全学の基盤となる分野にまで拡大してきています。

このような背景の下で、名古屋大学では平成16年度の法人化を契機として、高度な技術の全学的な流通と活用、技術支援業務の組織的な運営などを目指して、平成21年度に技術職員組織の全学一元化を行い全学技術センターとして発足しました。そして本年度には、教育研究設備の共用を実践する設備・機器共用推進室も設置され、新しい支援要素も加わっております。

一方で、教育研究支援はその現場と密接に連携することも重要です。そのため、工学研究科・工学部では、全学技術センター工学系技術支援室から派遣された技術職員からなる工学研究科・工学部技術部を置き、部局の教員との強い連携のもとに教育と研究の支援業務を精力的に行っています。また、技術職員は支援業務を通じての自己研鑽のみならず、学内外の技術発表会などを通じて、技術レベルの向上に意欲的に努めています。

本「技報」は、平成 26 年度の工学研究科・工学部技術部の取組みを示すものです。技術職員の方々が教育研究支援業務を通して得た成果、技術力を高めるために行った研鑽・研修活動の成果などを取りまとめ、技術部の技術の向上、教育研究支援活動の質の向上への足跡を示すものとなっています。技術部では、今後も更なる発展に向け研鑽を進める所存でおります。皆様方には、引き続きご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

平成 27 年 2 月

工学研究科・工学部 技術部長

松下 裕秀